

敦賀の宝「人道の港」

交通の要衝の新たな局面

敦賀市は、重点港湾である敦賀港を有し、後背地に阪神・中京の二大都市圏を控え、これらの地域と北陸だけでなく、対岸諸国をつなぐ交通の要衝として発展してきました。

北陸新幹線の敦賀開業が平成34年度末に予定されている中で、本市の交通結節機能のさらなる向上を期待しているところですが、しかし、交通網の発達には、観光圏域などの拡大につながる一方で、通過点となる危険性があるといった表裏一体の側面もあります。

「宝」の磨き上げと掘り起こし

単なる通過点としないためには、敦賀に行ってみようという気持ちの掘り起こし、すなわち敦賀

の魅力を作り、磨き上げていく必要があります。私は、この敦賀の魅力が「宝」と表現しています。

敦賀の魅力には、既に認知されてきているものと、埋もれていて生かされていないものの2種類があり、重要であるのは後者の埋もれている魅力をいかに掘り起こし、磨き上げていくかということであると考えております。

敦賀にしかない「宝」

新幹線は高速旅客鉄道であるため、観光が重要な要素となり、いかに敦賀の魅力を多くの方々に伝えることができるかが、新幹線開業による敦賀の発展の成否を握っているものと考えています。

敦賀の「宝」は、ほかの都市にはない敦賀ならではの「Only One」の地域資源であり、敦賀に由来する

れば味わうことができない物語や体験こそが、市外・県外から訪れていただいた観光客の胸を打ち、感銘を与えると認識しています。

ユダヤ難民らを 迎え入れた人道の港

この敦賀の「Only One」となり得る要素は、2つあると考えます。1つは、本市の立地特性である交通の要衝、特に近代以降の本市の発展を支えた「港と鉄道」であると考えます。特に鉄道は敦賀が日本海側で初めて敷設された地であることから、北陸新幹線といった鉄道網の整備と併せて、打ち出していくことができる要素であると認識しています。

次に2つ目は、「人道の港」のエピソードです。敦賀港は第二次世界大戦時において、杉原千畝氏の

発行した「命のビザ」を手にナチスの迫害を逃れたユダヤ人難民をはじめとした方々が第一歩を印した唯一の港であり、そのユダヤ人難民らを温かく迎えた「人道の港」といった側面があります。

このことから、敦賀にしかない「Only One」の2つの要素を生かし、「港と鉄道がつなぐ人道の港 敦賀」をテーマとして取り組んでいきたいと考えております。

先行的な取り組み

これをテーマとした取り組みは既に先行的に行われております。その第1弾が本年7月4日にリニューアルオープンした市立博物館です。市立博物館は、鉄道の敷設による発展史を含め、本市のこれまでの歴史や物語を一挙に体感することができる施設であるとともに、その建物自体も昭和2年に建設され、当時の繁栄ぶりを彷彿させる歴史的建造物であり、観光客の方々に本市を知ってもらおうと、貴重な施設です。

次に、第2弾の先行的な取り組みが、本年10月14日にオープンした敦賀赤レンガ倉庫です。本市の金ヶ崎地区には、港まち敦賀を象徴する建造物である赤レンガ倉庫が2棟あります。この1棟を飲食店3軒が入居するレストラン館として、もう1棟を本市が国際港として最も反映した明治後期から昭和初期を舞台とする約180㎡の鉄道と港ジオラマ展示場として整備しました。

先にご紹介した市立博物館と併せて、往時の敦賀の歴史を知っていただくとともに、杉原千畝氏の人道の港のエピソードもジオラマを通じて、視覚的に体感すること



ユダヤ人難民に関する貴重な資料も展示する「人道の港 敦賀ムゼウム」

ができる施設となっております。

そして、第3弾として、金ヶ崎地区には赤レンガ倉庫のほかに、杉原千畝氏の偉業とユダヤ人難民らを受け入れた敦賀市民の国際性や市民性を知ることができる「人道の港 敦賀ムゼウム」という施設があります。

本年10月16日、「命のピザ」で敦賀に上陸した難民の写真を収めたアルバムが、本市に寄贈されました。このアルバムは、ユダヤ人難民の渡航を支えた日本人男性が所有していたものであり、当時の敦賀とユダヤ人難民をつなぐ貴重な資料として「人道の港 敦賀ムゼウム」で展示する予定です。

人道の港のエピソードは、本市が全国に誇ることができるものであるとともに、世界へも誇ることができるものであると考えております。「人道の港 敦賀ムゼウム」には、現在、アメリカの金融界で活躍されている、杉原サバイバーの一人として敦賀に上陸したレオ・メラメド氏も訪れており、敦賀港はまさに世界的な認知を得るべきものであると強く認識しているところであります。

このことから、この「人道の港」を中心に、市立博物館や敦賀赤レ

ンガ倉庫を含め、「港と鉄道がつなぐ人道の港 敦賀」といった敦賀のブランドイメージ化を進めていきたいと考えております。

結び

北陸新幹線の敦賀開業を、千載一遇の機会としてとらえ、一人でも多くの方々をお迎えできるよう、このような「Only One」の敦賀の「玉」を磨き上げ、多くの方々に発信してまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 251.34 km²
- ◆ 人口 6万7298人
- ◆ 世帯数 2万8285世帯

〔将来都市像〕世界をつなぐ港まち みんなで拓く交流拠点都市 敦賀
〔まちの特徴〕天然の良港を擁し、古くから交流拠点都市として発展してきたまち

〔特産品〕敦賀ふぐ、越前ガニ、手す



敦賀市長
澗上隆信



きおぼろ昆布、東浦みかん
〔観光〕氣比神宮、氣比の松原、水島、人道の港 敦賀ムゼウム、敦賀赤レンガ倉庫、金崎宮、市立博物館、博物館通り
〔イベント〕敦賀まつり、とうろう流しと大花火大会、花換まつり、敦賀マラソン



港まち敦賀を象徴する「敦賀赤レンガ倉庫」

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

日本の活力を牽引し 世界と未来を変えるまち 川崎

イノベーションの拠点

「キングスカイフロント」

川崎市の人口は、国や多くの自治体が人口減少に転ずる中で本年4月に京都市を超え、政令指定都



キングスカイフロント（手前）と羽田空港（奥）

市中7番目の規模となりました。多摩川に沿った細長い地形で、東京都と横浜市に挟まれる形で位置している本市は、交通アクセスの良さなど利便性の高い生活都市としての一面に加え、成長産業の集積、文化・芸術やスポーツなどの多彩な魅力にあふれ、活力ある都市として発展を続けてきたこと、多くの方々から選ばれたことになりました。

一方、国全体では、老年人口が年少人口の2倍を超え、少子高齢化の進行がさらに鮮明となつていきます。本市でも当面人口増加が続くものの、平成32年には65歳以上の人口比率が21%を超える超高齢社会を迎えることが見込まれるなど、急速に進む少子高齢化に対して、将来を見据え、危機感を持って全力で取り組んでいく必要があ

ります。

人口減少・少子高齢社会においても、本市が住みやすく、働きやすい、活力ある都市として持続的に発展していくためには、さまざまな地域資源を最大限に生かしながら、高齢者や障がい者などが元気に生きがいを持って暮らせるまちづくりや、未来を担う子どもたちへの投資、本市の成長を支える産業の振興、都市基盤の整備などをバランスよく進めていくことが重要です。

特に、産業の振興については、京浜工業地帯の中心である市域南端の臨海部エリアにおいて、健康・医療・福祉・環境といった今後の成長が期待される分野のイノベーション（先端研究開発）拠点「キングスカイフロント（川崎市殿町地区の呼称）」を形成することによつ

て、わが国が直面する課題解決に貢献するとともに、持続的な経済成長を牽引していきます。

川崎の南端は世界の最先端

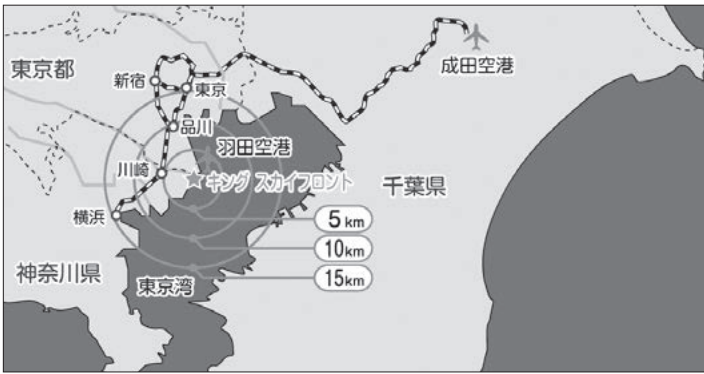
近代以降、日本経済を支え続けた京浜工業地帯は、その時々々のニーズに応え新たな技術を世に送り出し、高度経済成長期を経て現在まで発展してきたエリアです。

バブル経済の崩壊後、石油化学工場などの生産拠点は経済のグローバル化や円高、拠点集約の必要性などにより、生産コストの低廉な海外や地方都市へ移転していく傾向となり、川崎臨海部は空洞化危機に直面しました。少子高齢化が進む中、市内立地企業はいち早くそのような傾向をとらえビジネスモデルを見直して、これまで培ってきたものづくり技術をライフサイエンス分野にシフトし始めてきました。

こうした中、平成22年10月の羽田空港再国際化決定を背景として、本市は平成20年から、羽田空

港の多摩川対岸に位置する臨海部殿町地区の工場跡地について、まったく新しい研究開発産業拠点としての活用に着手しました。こうしてできあがったのが現在のキングスカイフロントです。

世界中の研究者やビジネスマンが、羽田空港国際線ターミナルから直線距離で約600mのキングスカイフロントに集まり、アルツハイマー病、難治がん、脊髄損傷の治療法や、最先端医療ロボットなどの医療機器が新たに生み出されることで、世界が直面している



キングスカイフロントの位置

課題の解決に貢献するとともに、市域のみならず日本全体の経済成長を牽引し、次の時代を川崎臨海部が切り拓いていくことを目指しています。

地方自治体が先導する成長戦略

このように本市では遊休地の土地活用の方向性を決定し、キングスカイフロントにグローバル企業や研究機関の誘致を進めてきました。その結果、世界的な医療機器メーカーであるジョンソン・エンド・ジョンソン、最先端ロボット・医療機器などの研究開発を行うCYBERDYNE(サイバーダイン)といった民間企業や、国立医薬品食品衛生研究所、日本アイソトープ協会、実験動物中央研究所などの公的な研究機関が続々と進出を決め、国際戦略拠点としての姿ができあがりつつあります。

本市が拠点形成を進めていく中で、政府からわが国の成長戦略を担うエリアとして、平成23年12月に国際戦略総合特区、平成26年5月には国家戦略特区に指定されました。

さらに本年5月、国家戦略特区

の目標達成に向けて、東京圏のビジネス機能を支える成長戦略拠点を形成するインフラとして、羽田空港とキングスカイフロントを結ぶ羽田連絡道路の整備が決定しました。

東京オリンピック・パラリンピックが開催される平成32年を目指し、成長戦略拠点の形成を支えるインフラとしてこの橋が完成すると、羽田空港からキングスカイフロントへのアクセスは飛躍的

プロフィール

- ◆ 面積 144・35km²
- ◆ 人口 145万7364人
- ◆ 世帯数 70万3574世帯

〔将来都市像〕成長と成熟の調和による持続可能な最幸のまち かわさき

〔まちの特徴〕多摩川などの豊かな自然や先端技術・研究開発拠点などをもつ多彩な魅力があふれるまち

〔特産品〕久寿餅、禅寺丸柿ワイン、



川崎市長
福田紀彦



多摩川梨、のらぼう菜、かわさき餃子みそ

〔観光〕川崎大師平間寺、川崎市藤子・F・不二雄ミュージアム、川崎市岡本太郎美術館、川崎工場夜景

〔イベント〕かわさき阿波おどり、ワサキハロウィン、川崎大師風鈴市、川崎・しんゆり芸術祭

に向上し、国内・海外から研究者やビジネスマンが日帰りでも共同研究やミーティングに来ることが容易になり、さらなる拠点価値の向上が期待されます。

キングスカイフロントにおける拠点形成を力強く進め、医薬品・医療機器などライフサイエンス分野をはじめとする成長産業の推進をさらに加速し、これからも地方自治体が先導する成長戦略に挑戦し続けます。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

「富士山の裾野、田園未来都市 すその」の挑戦

はじめに

裾野市は静岡県東部に位置し、周辺には富士山、箱根、伊豆半島という日本有数の観光地があります。人口は5万3000人余、合計特殊出生率は1・82人（県内1位）、生産年齢人口割合は64・6%（県内3位）です。自動車や光学機



世界かんがい施設遺産 深良用水

器などの大手企業が立地する一方、標高は78・5mから2169mと

変化に富み、日本一早くオープンするスキー場やサファリパークなどの観光施設もあります。首都圏から近く、東名高速道路など交通の便も良く、豊かな自然と産業が調和したまちです。

深良用水

深良用水は、江戸時代の初めのころまで用水確保が困難であった市域に、芦ノ湖の湖水を箱根外輪山の湖尻峠の下を水路トンネルで導水するため、寛文10年（1670年）に造成された農業用水路で、現在も約530haの農地を潤す重要な農業基盤として地域の農業を支えるとともに、発電、防災などの役割を担い、生活の安定と地域の発展に大きく貢献しています。

本市には、黄瀬川を中心

に富士山麓、箱根山麓、愛鷹山麓をそれぞれ水源とする河川があります。が、市域の多くは富士山の溶岩を地盤とし、特に富士山麓の雪や雨などの水資源の多くは地下に浸透し伏流水となっており、深良用水完成前は畑作が中心でした。

隧道工事は、当時の高度な測量技術を用い3年半の歳月を要し完成しました。深良側と芦ノ湖側の両側から、ノミを使った手掘りで掘削を開始しましたが、合流地点の高低差は1m程度、隧道の上部には換気のための息抜き穴が掘られるなど、先駆的な技術が用いられました。全長1280・3m、平均勾配130分の1、標高差9・8mで疎水隧道としては理想的といわれています。また、隧道工事後も畑成田（畑から田に変わったもの）と

新田の開発を進めるため、新たに水路を掘り黄瀬川に合流させ、市域が適度な傾斜地であることを利用し、各所に堰をつくり多くの水路を整備しました。

現在、深良用水は静岡県芦湖水利組合が管理し、今も続く水配人制度により取水や各圃場への分配調整などを行い、定期的に隧道や施設の点検が行われています。長年にわたるこれらの取り組みにより平成17年度「疎水百選」に選ばれ、平成26年には国際かんがい排水委員会による「世界かんがい施設遺産」に登録されました。深良用水は先人の英知と技術による歴史的大事業といえます。今後、この財産を市内外に伝えるとともに、守り継承してまいりたいと考えています。

人口増加から人口減少の局面へ

本市は、昭和35年に「裾野町工場設置奨励条例」を制定し、以後、大手企業の研究所・工場の誘致に



「世界遺産 富士山」の「すその」

より産業の集積が始まりました。昭和36年の矢崎部品の進出に始まり、三菱アルミニウム、トヨタ自動車東富士研究所、関東自動車工業（現トヨタ自動車東日本）、ヤクルト本社工場、キヤノン、矢崎総業本社機能、トヨタ東日本東富士総合センターの進出に加え、これら関連企業のほか、独自の技術を持った企業も多く立地しています。こうした先人の弛まぬ挑戦と努力により、本市の人口は増加し第2次産業就業人口比率は約4割に達しました。

平成26年12月に国から「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」が示された通り、わが国は東京一極集

中に対し地方の創生と人口減少の克服という構造的課題に直面しています。これまで一貫して人口増加傾向にあった本市においても、自然増の傾向は継続しているものの近年は社会減の傾向が強まりつつあり、人口減少局面に入りました。また、年少人口と生産年齢人口は既にピークを過ぎ、一方、老年人口は増加を続け、少子高齢化が進行しています。本市においても人口減少の問題は、本市の将来の地域づくりにさまざまな影響を及ぼすことが懸念されています。

裾野市まち・ひと・しごと創生総合戦略

本市は、富士山の裾野の豊富な水と緑あふれる東京100km圏内の田舎であるとともに、「世界遺産富士山」「世界かんがい施設遺産深良用水」をはじめとする地域文化や、グローバル経済圏で活躍する企業を含め産業集積の進んだまちです。働く世代が多く、高齢者も元氣な本市は、地方創生の担い手にふさわしい魅力があります。今後も豊かな自然環境の中で、未来を志向し個性あるまちづくりを進めるため、本年10月、「裾野市

人口ビジョン」と「裾野市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。人口ビジョンで掲げる2060年の人口5万2000人の確保と高齢化率28%台の維持に向けた合計特殊出生率2.07%、希望モデル世帯の年間20世帯の定住促進は、安易に達成できる目標ではありませんが、結婚・子育ての希望を実現する少子化対策、社会減の流れに歯止めを掛ける定住の

促進、社会増の流れをつくる持続可能な地域経済の構築を目指し、総合戦略を展開してまいります。この富士山の裾野の地で、東京に負けないよう、地方創生の風をしっかりと受け止め、地域にあるものを探し、磨きを掛け、裾野市発の元氣を創り出していく、そのためには企業を含めた市民の皆さんと「オール裾野市」として挑戦してまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 138.12 km²
- ◆ 人口 5万3166人
- ◆ 世帯数 2万1473世帯

〔将来都市像〕みんなの元氣と調和でつくる暮らし満足都市
〔まちの特徴〕「世界遺産 富士山」をはじめとする地域文化、豊かな自然と産業が調和したまち

〔特産品〕そば、ただにしき（紅茶）、いちじ、タケノコ、大和芋、モロヘイヤ



裾野市長 高村謙二



〔観光〕スノータウンイエティ、ぐりんば、富士サファリパーク、須山浅間神社、パノラマロード
〔イベント〕すその夏まつり、すその阿波おどり大会、富士山国際雪合戦大会、富士裾野高原マラソン、富士山すそのパノラマロード菜の花&桜まつり・コスモスまつり

※ 面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

近代化産業遺産を生かした 観光まちづくり

はじめに

新居浜市と別子銅山

新居浜市は、愛媛県の東部に位置し、北は瀬戸内海、南は四国山地の赤石山系があり、風光明媚な人口約12万3000人のまちです。

元禄4年(1691年)、住友家による別子銅山開坑後、283年間に及ぶ鉱山稼行から産業が次々



市を代表する近代化産業遺産「貯鉱庫跡・索道停車場跡」

にいはま

と派生し、現在も市内には、鉱業、

化学、重機械工業、林業、電力業

など住友グループ企業が脈々と事業展開をしています。また、住友

企業との関係から技術力のある中小鉄工業が集積していることもあり、「ものづくりのまち」としても知られています。

別子銅山の産業遺産を生かした産業観光事業の展開 — マイントピア別子 —

日本三大銅山の一つ、別子銅山の鉱業から本市は工業都市として発展してきましたが、昭和48年の別子銅山休山後、工業偏重の産業構造転換、新しい産業起こしといった視点に立ち、瀬戸内の中核都市としての魅力あるまちづくりを図るため、本市固有の文化、歴史的財産である「別子銅山産業遺

産」と名勝「別子ライン」やツガザ

クラなど多種多様な高山植物に恵まれた「赤石山系」といった市内

南部地域の山岳資源を生かした観光レクリエーション開発を行うという「新居浜市南部観光レクリエーション開発基本計画」を昭和

62年に策定し、観光まちづくりを進めてまいりました。

まず、別子銅山最後の採鉱本部跡地で、近代化産業遺産の集積地の一つである端出場ゾーンを、本市

と第3セクター事業の組み合わせにより、鉱山観光地として再生する

という考えの下、事業着手し、観光開発を進めた結果、平成3年5

月に鉱山のテーマパーク「マイントピア別子」(マイントピアとは、マ

イン⇨鉱山とユートピア⇨理想郷の合成語です)が完成し、同年6月

には、鉱山鉄道、観光坑道、温泉施

設、レストランなどの施設をオープンいたしました(温泉施設部分は、現在改修中で、平成28年4月にリニューアルオープン予定)。

その後、第2期マイントピア別子開発事業として、端出場以前に採鉱本部が置かれ、最盛期には約5000人の鉱山従事者とその家族が住んでいた標高約750mの山中にある東平ゾーンを観光開発し、平成6年6月に東平歴史資料館、メイン工房、花木園などの施設がオープンいたしました。東平ゾーンは、山中に突然現れる重厚な産業遺産の石積や生活文化の遺構から、東洋のマチュピチュとも呼ばれており、平成25年には世界遺産のマチュピチュがあるペルー共和国の在日大使にも現地を視察していただきました。

マイントピア別子以外の 市内の主な産業観光・ 教育施設と観光客対策

①別子銅山記念館(昭和50年開館)
別子銅山の意義を長く後世に伝

えるために、住友グループにより建設された企業資料館です。別子銅山関係の資料を数多く保管しており、その一部が館内で展示されています。館外には、日本初の山岳鉱山専用鉄道として走った蒸気機関車などの実物が展示されています。

②**広瀬歴史記念館(平成9年開館)**
幕末から明治期前半にかけて別子銅山支配人や住友家初代総理事を務めた広瀬宰平とその子孫の旧邸宅(重要文化財)と庭園、そして、別子銅山の歴史を紹介している展示館とで構成されています。

③**観光ガイドの育成と観光カイド活動(平成11年)**
「新居浜観光ガイドの会」が市民有志で組織され、マイントピア別子を中心にガイド活動を精力的に行っており、観光客からご好評を得ています。

④**東洋のマチュピチュ・東平定期観光バスの運行(平成25年)**
株式会社マイントピア別子は、旅行業へも進出し、さらに端出場ゾーンと東平ゾーンを結ぶ有料観光バス運行を行うため、自ら緑ナンバーを取得し、観光客に周遊していただく旅行メニューを企画・販売できる体制を整えました。

⑤着地型旅行商品の造成・販売(平成25年)

端出場ゾーンと東平ゾーンを結ぶ観光バスに観光ガイドが同乗し現地を案内、そして、端出場ゾーンの鉱山観光をセットにした旅行商品「別子銅山ハイランドプラン」を造成し、全国の主要な旅行会社のツアープランとして販売されています。

おわりに—今後の産業観光振興の方向性と展望—

別子銅山の貴重な近代化産業遺産を生かした観光地で、年間約50万人の観光客でにぎわう「マイントピア別子」(端出場ゾーン・東平ゾーン)を核とした産業観光の振興に、本市はこれからも積極的



東平ゾーンでガイドを行う「天空の語り部」

に取り組んでまいります。

また、愛媛県東部地域は、本市の鉱業、化学工業、重機械工業、四国中央市の製紙業、西条市の機械製造業、飲料品製造業、今治市の造船業、タオル製造業など、さまざまな業種の産業が集積している全国的にも珍しい地域です。

今後、これら地域にある産業観光施設、企業施設との連携を強化し、官民協力しながら産業観光を

プロフィール

- ◆面積 234.46 km²
- ◆人口 12万2559人
- ◆世帯数 5万7220世帯

〔将来都市像〕あかがねのまち、笑顔輝く産業・環境共生都市
〔まちの特徴〕元禄4年開坑の歴史を持つ別子銅山の鉱山業から派生した、化学、重機械工業、電力などの企業拠点となった工業都市

〔市町村合併〕平成15年4月1日、旧



新居浜市長
石川勝行



別子山村と合併
〔特産品〕白いも、ぶぐざく、えびてん、栗タルト
〔観光〕マイントピア別子、あかがねミュージアム、別子銅山記念館、広瀬歴史記念館、愛媛県総合科学博物館
〔イベント〕新居浜太鼓祭り、笑顔甲子園、新居のいもだき

振興し、交流人口の拡大による地方創生にも取り組んでいく所存です。最後になりますが、本年度の「第9回産業観光まちづくり大賞」において本市の近代化産業遺産を活用した観光活性化の取り組みを評価していただき、経済産業大臣賞を受賞いたしました。名誉ある賞をいただいたことを励みとし、産業観光都市としてさらなるステップアップを目指してまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。